

社会包摂型アートマネジメント・プロフェッショナル育成事業 「アートの活用形？」

[講座の内容について]

① 5月28日(水)19:00 -21:00 「アンチ・グローバリズムの地平から」

藤野一夫 (神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

極端なグローバル資本主義がもたらす様々な弊害は、社会が直面する現代の大きな課題のひとつである。この状況を批評的に読み解き、住民が主体となる「新しい公共」を再構築する時に、アートが果たす役割は大いに期待される。文化政策の第一人者である藤野氏の考察をもとに、社会包摂型アートマネジメントの基礎となる「芸術が開く公共性」について学ぶ。

② 6月25日(水)19:00 -21:00 「悲しみから生まれる可能性」

播磨靖夫 (一般財団法人たんぼぼの家 理事長)

“驚きと感動”を与える障がいのある人たちによる芸術。その可能性に着目し、「エイブル・アート」を提唱した播磨氏は、早くから社会福祉活動の中に芸術活動を重要な要素として位置づけてきた先駆者の一人。たんぼぼの家での活動をはじめとし、アートとケアの視点から手がけてきた革新的な取り組みについて紹介し、福祉におけるアートの可能性についてディスカッションする。

③ 7月23日(水)19:00 -21:00 「いのちをつなぐアート」

山口悦子 (大阪市立大学医学部附属病院医療安全管理部副部長)

2000年より大阪市大病院において日本でも先駆的に取り組まれてきたアートによるワークショップやプロジェクト。患者のみならず、医療や看護職に就く者など、病院の全セクターを対象に、病院の質を高めていくことをめざした取り組みである。アートもつ創造性や包容力を最大限に活かした医療現場での実践から、いのちを守る施設におけるアートの活用法を考察する

④ 8月27日(水)19:00 -21:00 「学校とアートをむすぶ」

井手上春香 (NPO 法人子どもとアーティストの出会い 理事長)

小・中・高等学校など、教育現場に芸術家が出来向いて実施するワークショップ型授業の企画・運営を行うアートマネジメントの専門家。子どもがアーティストとともに創造的な活動を行う機会の創出に全国的に取り組んでいる。次代を担う子どもたちの成長にとって、アートに出会い、触れることがどのような作用をもたらすのか。アートを活用した新しい学びの場において必要とするマネジメントの手法やその意義を学ぶ。

⑤ 9月(予定)「アジアの現場から：タイのアートマネジメント」

グリティア・ガウィウオン (ジムトンプソン・アートセンター)

急速な経済発展とともに ASEAN の経済統合を控え、大きく変容を迫られるタイ。政治的にも不安定な状況のなかでアーティストたちがどのように社会と向き合い創造活動に取り組んでいるのか。タイの現代美術の最前線で活躍するキュレーターが文化政策とアーティストの実践、また連携を進める近隣諸国との取り組みを分析しながら、アジアに必要なアートマネジメントについて考察する。

⑥ 10月22日(水)19:00 -21:00「演劇で育む想像力」

小田中章浩 (大阪市立大学大学院文学研究科教授)

アートマネジメントと文化政策は深い関係をもつ。フランス演劇研究の第一人者が、演劇上演の実際を話しながら、その地での文化状況、とりわけ文化政策とどのような関係をとって上演されているかを明らかにする。また、近代知の代表のようなフランス演劇が、現在のグローバリズムのなかで持つ意味について考え、社会包摂との意外な関係性についてディスカッションする。

⑦ 11月26日(水)19:00 -21:00「地域とアートプロジェクト：違和感と向き合う」

藤浩志 (十和田市現代美術館館長／美術家)

80年代より地域社会を舞台とした表現活動を志向し、全国のアートプロジェクトの現場で「対話と地域実験」による創造的な活動をつくり出すパイオニア的アーティストの一人。地域資源・適正技術・協力関係を活かした活動の連鎖を促すシステム型の美術表現を探求する。地域の抱える様々な課題に対し、アートが果たし得る役割とは何か、アーティストの視点から考えていく。

⑧ 12月10日(水)19:00 -21:00「シビックプライドと自治から考えるアート」

嘉名光市 (大阪市立大学大学院工学研究科准教授)

都市計画、景観論、都市計画史を研究し、水辺再生を推進する水都大阪ではアドバイザーをつとめるなど、都市の再生に向けた都市デザイン、参加型まちづくりに取り組む。新しい都市政策のかたちとして「シビックプライド」に着目する。生活者に焦点をあてた参加型まちづくりの観点から、アートの可能性を考察する。

⑨ 1月(予定) 社会的課題とアートの力

マット・ピーコック (ストリートワイズ・オペラ代表)

ホームレスとプロのアーティストの協働により、本格的なオペラ公演を行うほか、ホームレスセンターと連携し、音楽ワークショップを通じた彼らの自立支援を継続的に実践するイギリスのソーシャルアート団体、ストリートワイズ・オペラ。その創始者であるピーコック氏自身による実践をふまえた方法論から社会的課題と寄り添うアートの在り方について考察する。

⑩ 2月18日(水)19:00 -21:00「アートと社会的包摂、そしてアジア」

中川眞（大阪市立大学大学院文学研究科教授）

本講座を締めくくるにあたり、アートが社会的包摂にかかわる意味について再考する。それはこれまでの社会的包摂の概念を少なからずらし、異化する働きをするだろう。そのアイデアは日本よりむしろアジア各国の方が濃厚であり、アジア型アートマネジメント誕生の可能性が感じられる。それは欧米生まれのアートマネジメント理論に大きな変更をせまることになるだろう。

[プロジェクト実践について]

詳細は講座にてお知らせいたします。

(1)「病院を元気にするアートプロジェクト」アーティスト：森口ゆたか

連携先：大阪市立大学医学部附属病院 講師：森合音

実施時期 2014年9月～2015年3月にかけて〈全6回〉

ホスピタルアートとは病院という場に充満する様々な想いをアートという名のフラットな「広場」において語り合い、問題点やニーズを洗い出し、そこに創造性や新たな角度からの視点を持ち込むことで新しい「解」を導きだす取り組みのこと。その「解」には常に別の「解」が存在すると同時に「問い」も含まれている。本プログラムでは、現場の声に耳を澄まし、対話から生まれる新しい病院のかたちを、アーティスト、職員、そして受講生の皆さんと一緒に探ってゆく。

(2)「こども熱帯音楽祭」アーティスト：横沢道治ほか

連携先 NPO cobon タチョナプロジェクト 講師：小島剛

実施時期 2014年7月～9月にかけて〈全6回〉

「タチョナ」は、主に学校の授業のなかで子どもたちがアートに触れ体感する芸術体験プログラムを提供している。「こども熱帯音楽祭」が目的とするのは、アーティストと子どもたちが共に創意工夫して音楽を創っていくことを通して、様々な課題を創造的に解決していく力を育ててゆくこと。本プログラムでは、教育現場において、子どもたちの創造性を引き出すために必要となる教員や保護者との連携によって、より柔軟で想像的なマネジメント力を養っていく。

(3) 「HANA アートフェスティバル」アーティスト：sonihouse ほか

連携先：たんぼぼの家 アートセンターHANA 講師：岡部太郎、

実施時期 2014年6月～12月にかけて<全10回>

日本で初めての障がいのある人のアートセンター「たんぼぼの家アートセンターHANA」。ここから多様な表現が数多く生まれ、国内外で作品発表するとともに、アートが障がいのある人の「しごと」になる試みを続けている。本プログラムでは、アーティストとHANAメンバー、そして地域の人たちをつなぐ創造活動をつくり、アートを媒介としてネットワークを広げていくことで、10年目を迎えるHANAの課題の一つ、「地域における役割」を考える。

(4) 「「つくる」ことを軸にした共有の場づくり」アーティスト：藪内美佐子

連携先：プレーカープロジェクト 講師：松尾真由子、ゲスト講師：グリティア・ガウイ
ウォン

実施時期 2014年9月～2015年2月にかけて<全6回>

地域密着型のアートプロジェクトを展開するプレーカープロジェクトは、独自の表現手段を開拓するアーティストと共に地域の人々との関わりをつくりながら、日常のなかに創造の現場を生み出している。空き家などのスペースを活用した創造活動拠点は、アーティストと共に、地域に根ざした創造活動をつくっていく共有の場。アートと地域をどのようにつなぎ、有効な関係をつくっていくのか、現場の実践を通して、それぞれがその手法を発見していくプログラム。

(5) 「釜ヶ崎オ！ペラ」アーティスト：ストリートワイズ・オペラほか

連携先 NPO こえとことばとこころの部屋(ココルーム) 講師：上田假奈代、ゲスト講師：
マット・ピーコックほか

実施時期 2014年11月～2015年2月にかけて<全10回>

寄せ場(日雇い労働市場)・釜ヶ崎も変化し、高齢者が多く暮らしている。このまちで活動するココルームはカフェや釜ヶ崎芸術大学などによって、まちの人々とさまざまな人々とのあいをつむぎ、表現と学び合いの場をつくっている。本プログラムでは、ホームレスの人々とオペラを通じて活動するストリートワイズ・オペラをイギリスから招き、「釜ヶ崎オ！ペラ」を制作する。人生のひきうけ方を他者と関わりながらみだしていくなかで、アートマネジメントの果たせる役割を考え、その多様性に気づき、手法を学ぶ。